

北九州市孤独・孤立対策等連携協議会 ケーススタディ概要

現状・課題

- 各支援団体の連絡先やどんな活動をしているのか、具体的な情報がわからない。
- 詳細を知らない団体に相談者を紹介して、相談者が傷ついてしまうという事例があった。
- 孤独・孤立にもいろんな悩みがあり、どこに相談に行けばいいのかわからない。

目的

- 各支援団体がより緊密に連携を取りやすいように各団体に対する相互理解を深める。
- 各団体が活動の中で経験した困り事や悩みについて、様々な分野の支援団体が「もし自分が当事者だったら、その状況下でどのような意思決定・行動をするのか？」ということを考え、参加者同士の議論を通して学びや気づきを得ることで、支援の質の向上を図る。
- ケーススタディの発表内容や、それに対するご意見などは、将来的に事例集としてとりまとめ、個人情報保護に留意した上で、協議会の皆様などと共有し、今後の支援活動に役立てる。

内容

- ① 会場：男女共同参画センター・ムーブ 5階 大セミナールーム
- ② 日時：令和4年12月13日（火） 15時30分～
- ③ 対象者：孤独・孤立対策等連携協議会 15 団体、行政職員
- ④ テーマ：「男性介護者の孤独・孤立」

実施スケジュール

- ◆ ケーススタディ 役割の確認 【 5分 】
- ◆ 事例の発表 【 20分 ～ 30分 】
- ◆ 質疑応答 【 15分 】
- ◆ まとめ 【 10分 】

北九州市 孤独・孤立対策等連携協議会 ケーススタディ

1. ケーススタディの目的は？

ケーススタディの目的は、利用者や家族・利用者を取り巻く環境などの困難さを解決に導くことや、事例発表者の悩みを参加者全員と共有しながら課題を分析し解決の糸口を得ることで、支援の質の向上を目指します。

ケーススタディで取り上げる事例は、各団体の活動分野ごと様々ですが、事例検討を通して、孤独・孤立対策等連携協議会の参加団体が、お互いの事業内容や役割などの理解を深め、協働・連携を一層深めていくことを目的とします。

2. ケーススタディのルール

- ① 守秘義務を守りましょう。
- ② 発表者や発表事例の批判はしないようにしましょう。
- ③ 発表者や発言者の意見を否定しないようにしましょう。
- ④ 自分の意見を押し付けないようにしましょう。
- ⑤ 決められた時間や時間配分に配慮しましょう。
- ⑥ 実行可能な支援方法を考えるようにこころがけましょう。
- ⑦ お互いに連携するにはどうすればよいか、どういった点で連携できるか、という視点を持って参加しましょう。

3. 参加上のマナー

- ① 誰もが理解できる言葉や表現を使用しましょう。
- ② 大きな声で、はっきりと、ゆっくりとわかりやすい話し方で伝えましょう。
- ③ 共感的な表情や姿勢、温かな視線を心がけましょう。
- ④ 発表者が「事例を提出して良かった」と思えるような検討会にしましょう。

4. 事例発表者の役割

- ① 事例提出用紙を作成し、全員に配布します。
- ② なぜその事例を選んだのかを簡潔に説明します。
- ③ 事例の内容について参加者にわかりやすく説明します。
- ④ 検討会後に事例提出用紙は回収します。

5. 参加者の役割

- ① 事例発表者の説明を受け、事例をイメージします。
- ② 質問がある場合は一問一答形式を心がけ、具体的な質問や提案を行います。
- ③ 関連した質問を心がけます。同じ質問は繰り返さないよう気を付けましょう。
- ④ 質問や意見を独占したり、割り込んだりしないようにしましょう。
- ⑤ 積極的に質問をしましょう。(一つは質問をしてみよう!)